

江田島市 人口ビジョン

たたき台

平成27年7月23日

目 次

1. 人口の現状分析.....	1
(1) 人口動向分析.....	1
(2) 自然増減の分析.....	3
(3) 社会増減の分析.....	9
(4) 雇用や就労等に関する分析.....	19
(5) まとめ.....	23
2. 将来人口の推計と分析.....	24
(1) 将来人口推計.....	24

1. 人口の現状分析

(1) 人口動向分析

a. 人口の現状

平成22年(2010年)の江田島市の人口は、27,023人(国勢調査、年齢不詳は除く)となっています。

年齢別では、昭和1桁生まれと団塊の世代人口が多い「ひょうたん型」となっており、年齢が低下するに従い人口が減少しています。若い世代では、高校卒業まではほぼ男女同数ですが、20歳代～40歳代では女性の方が男性より2～3割程度人口が少なくなっており、今後、出生数の更なる減少が見込まれています。

図1 人口ピラミッド 平成22(2010)年

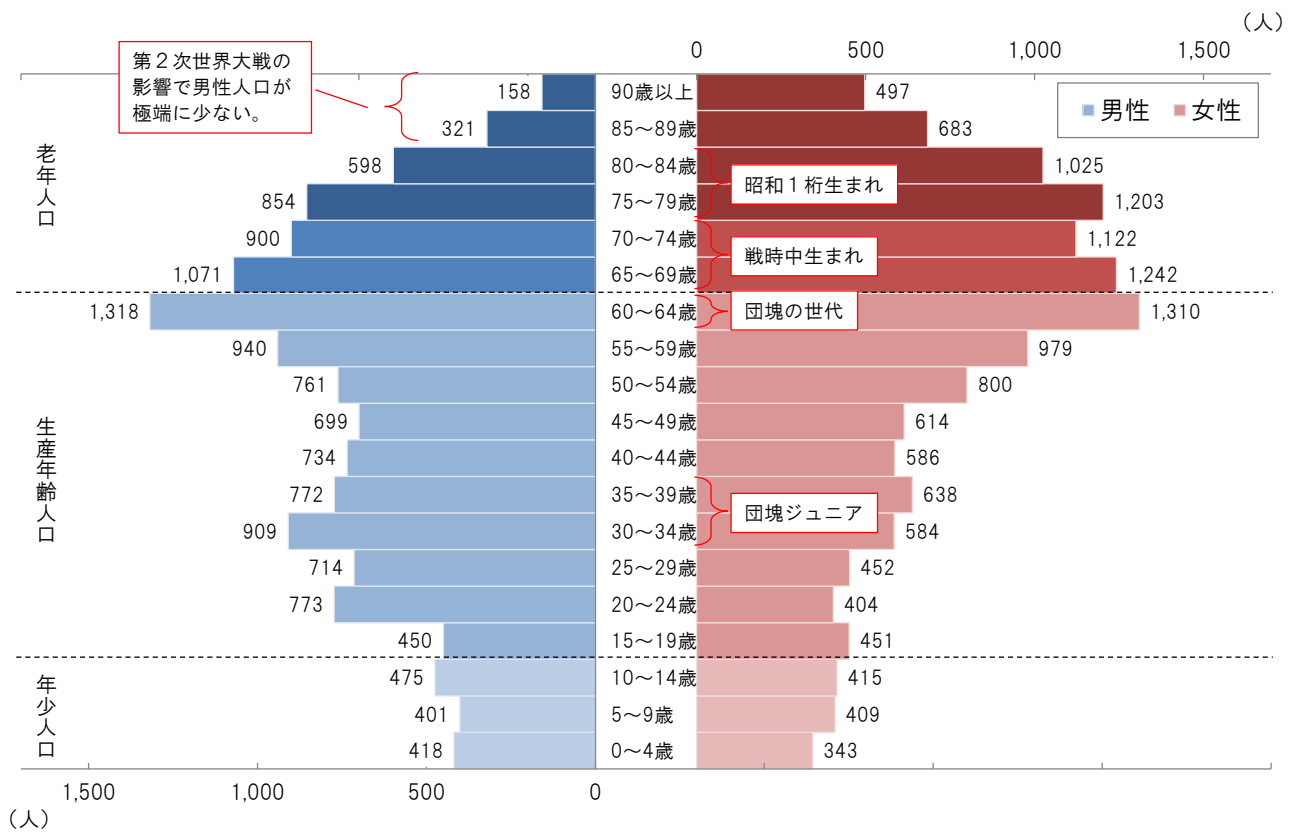


表1 男女別・年齢階層別の割合 (平成22年)

	江田島市		広島県		全国	
	男	女	男	女	男	女
0-19歳	6.5%	6.0%	9.5%	9.0%	9.2%	8.8%
20-49歳	17.0%	12.1%	18.4%	18.3%	19.3%	18.9%
50-64歳	11.2%	11.4%	10.3%	10.6%	10.2%	10.5%
65歳-	14.4%	21.4%	10.0%	13.9%	9.8%	13.2%

出典：国勢調査

※各総人口に占める割合

b. 総人口の推移（年齢3区分）

江田島市の総人口は、昭和50年（1975年）に43,474人となっていますが、その後減少が続き、平成22年（2010年）までの35年間で16,451人（37.8%）減少しています。その間、生産年齢人口（15～65歳）、年少人口（0～14歳）はともに減少が続き、生産年齢人口は13,485人（47.5%）、年少人口は6,897人（73.7%）減少しています。

一方、高齢者人口（65歳以上人口）は昭和50年（1975年）に5,743人ですが、その後、増加傾向で推移し、平成2年（1990年）には年少人口を上回り、平成22年時点では9,674人となり、3,931人（68.5%）増加しています。

図2 年齢3区分人口の推移

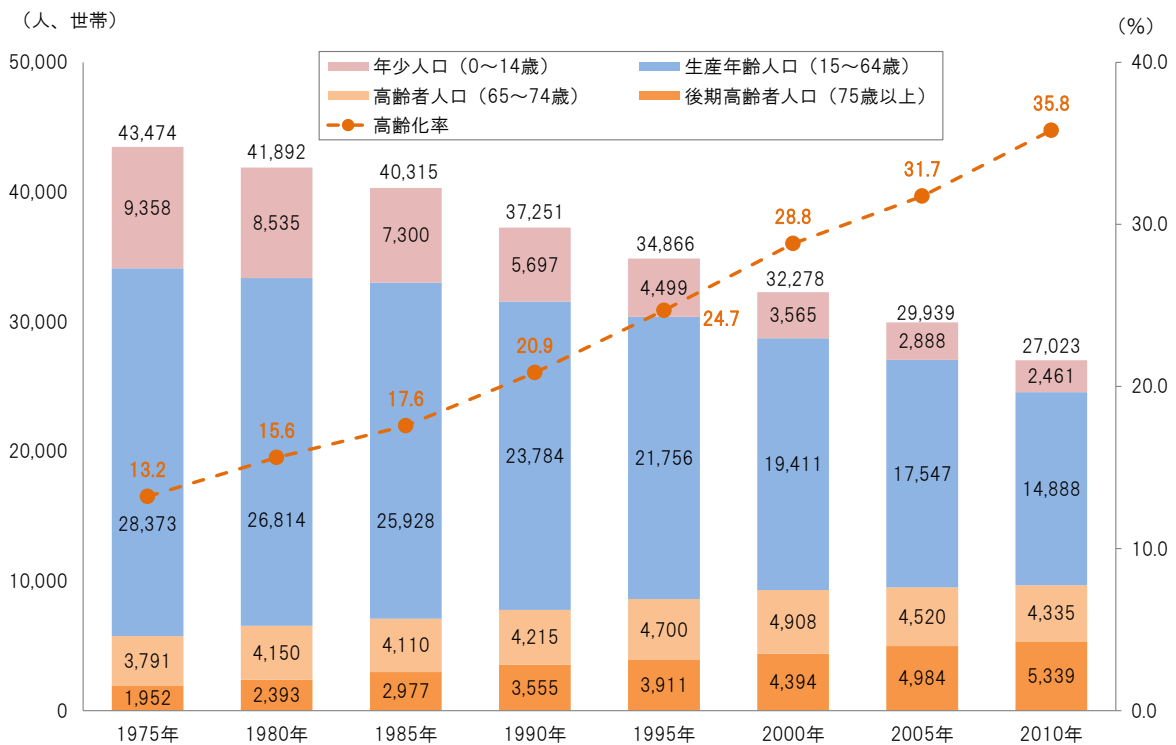


表2 年齢3区分の増減割合（1975⇒2010）

	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	高齢者人口	
			前期高齢者 (65～74歳)	後期高齢者 (75歳以上)
江田島市	▲73.7%	▲47.5%	14.3%	173.5%
広島県	▲38.9%	▲0.7%	123.2%	307.9%
全国	▲38.3%	6.9%	151.8%	395.4%

出典：国勢調査

(2) 自然増減の分析

a. 自然動態（出生・死亡）の推移

江田島市の出生数は、母親世代（15～49歳）人口の減少の影響で、昭和50年（1975年）以降減少傾向にあり、平成25年（2013年）時点で70.8%減少していますが、平成18年（2006年）以降は毎年150人前後で推移しています。

一方、死亡数については大きな変化はありませんが、高齢者人口の増加に伴い、やや増加傾向で推移しています。

このため、年間の自然増減（出生数と死亡数の差）については、昭和55年（1980年）から平成17年（2005年）で自然減少が増加し、平成17年以降は概ね年間300人超の減少で推移しています。

図3 自然動態（出生・死亡）の推移

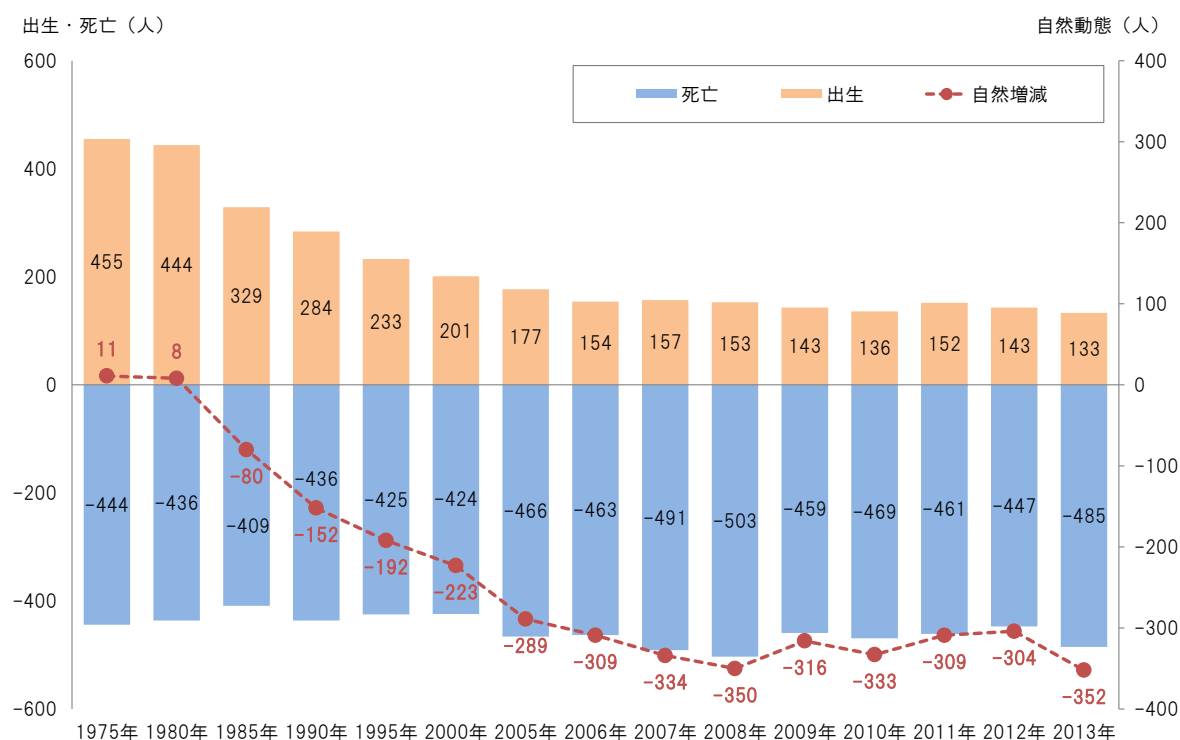


表3 自然増減数と自然増減率の比較

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
江田島市	-316人	-333人	-309人	-304人	-352人
	-11.5%	-12.3%	-11.7%	-11.8%	-13.9%
広島県	-1,049人	-1,515人	-2,851人	-3,709人	-4,691人
	-0.4%	-0.5%	-1.0%	-1.3%	-1.7%
全国	-58,958人	-104,701人	-179,664人	-204,766人	-231,825人
	-0.5%	-0.8%	-1.4%	-1.6%	-1.8%

出典：全国は人口推計調査，その他は広島県人口移動統計調査より作成

※1985年までは年度集計，1990年以降は前年10月1日～当年9月31日までの集計

b. 出産年齢女性の推移

江田島市の母親世代（15歳～49歳）の人口は、昭和50年（1975年）には10,145人でしたが、その後、減少で推移し、平成22年（2010年）には3,729人となり、6,416人（63.2%）減少しています。

この間の生産年齢の人口は、47.5%減少していますが、母親世代の人口はそれよりも減少率が大きくなっています。

図4 母親世代人口の推移

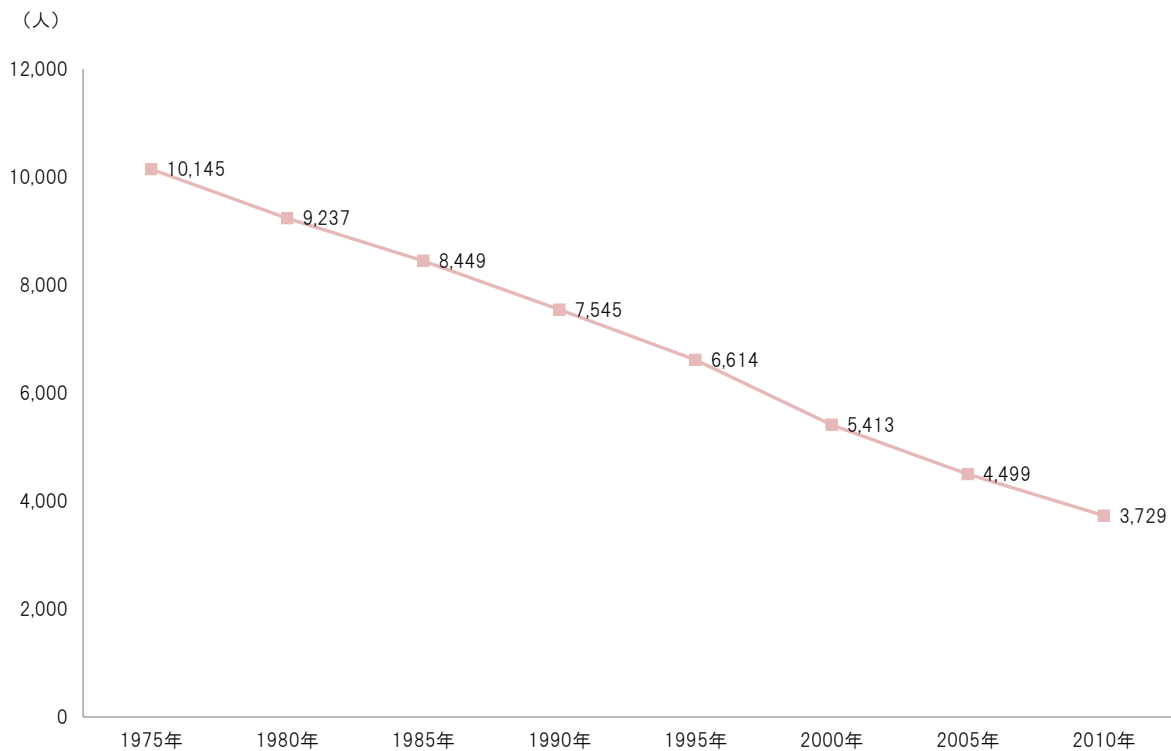


表4 母親世代人口割合の比較

	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
江田島市	100	91.0	83.3	74.4	65.2	53.4	44.3	36.8
広島県	100	98.9	99.4	101.3	99.5	92.3	86.8	82.8
全国	100	100.7	101.4	103.2	102.0	96.2	91.7	88.8

出典：国勢調査

※1975年を100とした割合

c. 合計特殊出生率

1人の女性が一生に産む子どもの平均数である「合計特殊出生率」の推移を江田島市についてみると、平成14年(2002)年までは減少傾向でしたが、平成15年(2003年)以降は増加傾向となっており、現在は1.47となっています。

全国平均1.38よりは高いですが、広島県平均1.54より低くなっています。

図5 合計特殊出生率の推移

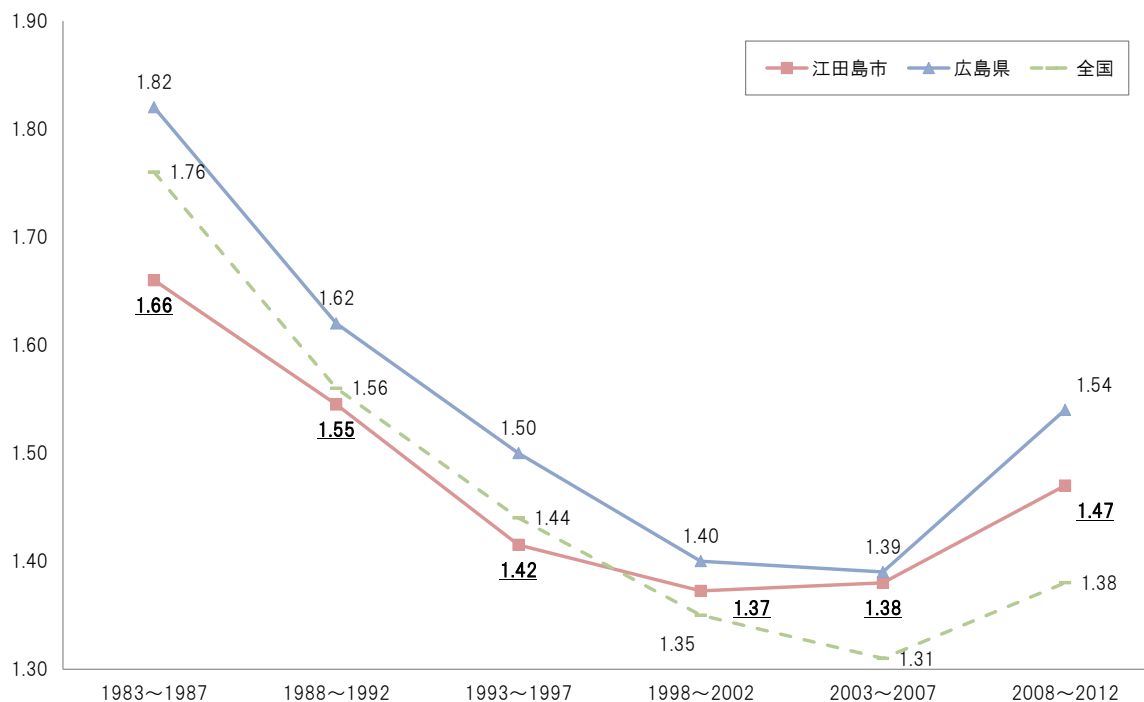


表5 合計特殊出生率の比較

	1983 ~1987	1988 ~1992	1993 ~1997	1998 ~2002	2003 ~2007	2008 ~2012
江田島市	1.66	1.55	1.42	1.37	1.38	1.47
広島県	1.82	1.62	1.50	1.40	1.39	1.54
全国	1.76	1.56	1.44	1.35	1.31	1.38

出典：「人口動態保健所・市区町村別統計」（厚生労働省）

d. 婚姻率（男女別・年齢別）

江田島市の15～49歳の男女別，年齢別の婚姻率をみると，男女・年齢別に関係なく，1980年以降，未婚率は増加傾向となっています。

前述の合計特殊出生率が高かった1990年代と比較すると，未婚率が高くなっており，特に30歳以降でこの傾向が顕著となっています。

男女別では，女性より男性の未婚率が高くなっています。

図6-1 未婚率（男）

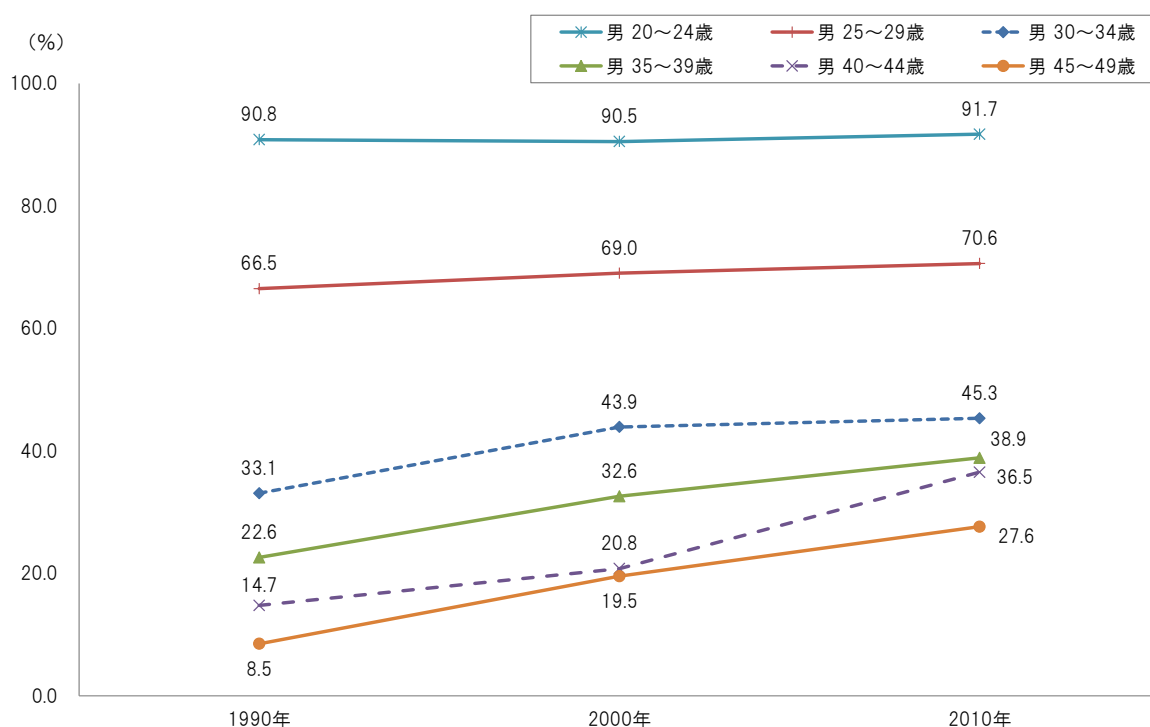


表6-1 未婚率（男）の比較

	江田島市			広島県			全国		
	1990	2000	2010	1990	2000	2010	1990	2000	2010
20～24 歳	90.8%	90.5%	91.7%	90.3%	91.8%	91.4%	92.2%	92.9%	91.4%
25～29 歳	66.5%	69.0%	70.6%	60.9%	65.4%	65.7%	64.3%	69.3%	69.2%
30～34 歳	33.1%	43.9%	45.3%	28.2%	38.8%	42.8%	32.6%	42.9%	46.0%
35～39 歳	22.6%	32.6%	38.9%	15.6%	22.5%	32.1%	19.0%	25.7%	34.8%
40～44 歳	14.7%	20.8%	36.5%	9.7%	15.4%	25.7%	11.7%	18.4%	28.0%
45～49 歳	8.5%	19.5%	27.6%	5.2%	12.4%	19.8%	6.7%	14.6%	22.0%

出典：国勢調査

図6-2 未婚率（女）

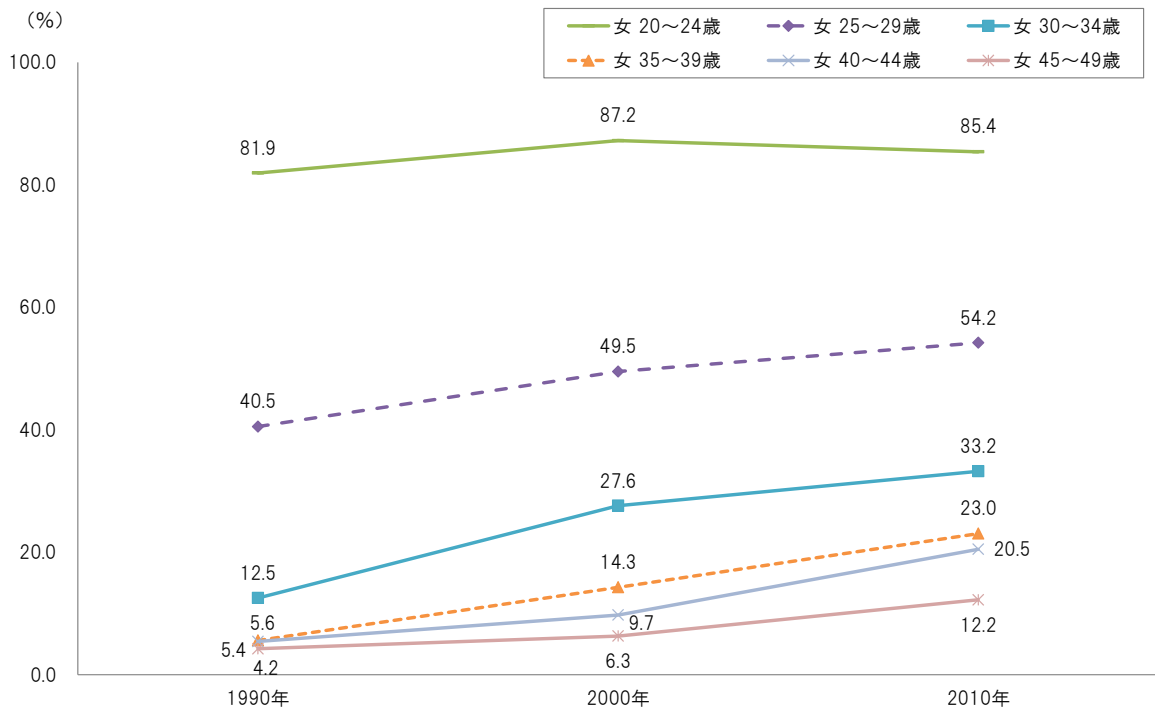


表6-2 未婚率（女）の比較

	江田島市			広島県			全国		
	1990	2000	2010	1990	2000	2010	1990	2000	2010
20～24歳	81.9%	87.2%	85.4%	83.2%	87.0%	86.9%	85.1%	87.9%	88.3%
25～29歳	40.5%	49.5%	54.2%	35.7%	50.9%	55.4%	40.2%	54.0%	59.6%
30～34歳	12.5%	27.6%	33.2%	11.1%	24.6%	31.9%	13.8%	26.6%	34.2%
35～39歳	5.6%	14.3%	23.0%	5.8%	12.1%	21.3%	7.5%	13.8%	22.8%
40～44歳	5.4%	9.7%	20.5%	4.5%	7.2%	16.3%	5.7%	8.6%	17.1%
45～49歳	4.2%	6.3%	12.2%	3.8%	5.0%	11.2%	4.6%	6.3%	12.3%

出典：国勢調査

e. 子どもの数別世帯割合

江田島市の夫婦のいる一般世帯数を子どもの人数別にみると、半数以上が子どもがいない夫婦のみの世帯となっています。子どもがいる世帯では、子どもが2人いる世帯が最も多くなっています。

県平均との比較では、夫婦のみ（子どもなし）の世帯が県平均よりも高く、子どもがいる世帯については県平均よりも割合が低くなっています。

表7 子どもの数別世帯割合

	江田島市		広島県	全国
	世帯数	割合	割合	割合
夫婦のいる一般世帯	6,512	100%	100%	100%
子どもなし	3,698	56.8%	42.5%	39.3%
子ども1人	428	6.6%	10.7%	11.2%
子ども2人	635	9.8%	16.8%	17.0%
子ども3人	264	4.1%	5.4%	5.4%
子ども4人以上	47	0.7%	0.8%	0.8%
18歳以上の子どもあり	1,440	22.1%	23.8%	26.3%

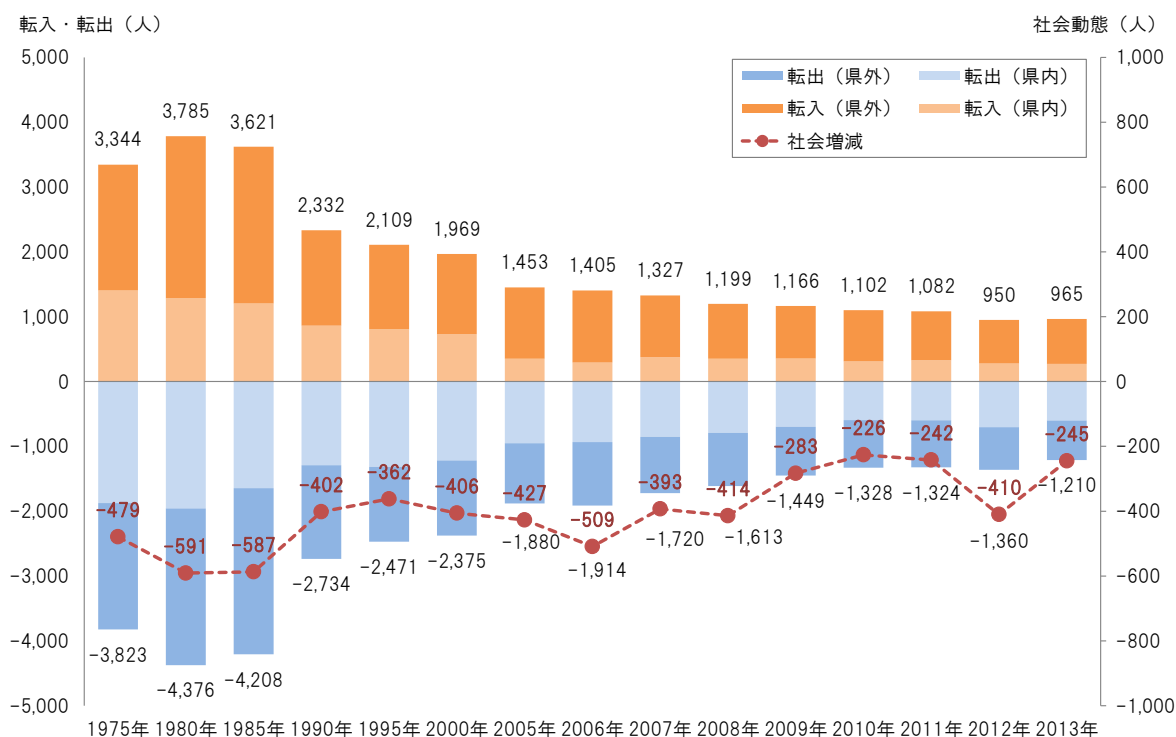
出典：国勢調査

(3) 社会増減の分析

a. 社会動態（転入・転出）の推移

江田島市の社会増減（転入数と転出数の差）については、昭和50年（1980年）～平成18年（2006年）は約400人～500人程度の転出超過で推移していましたが、平成19年（2007年）以降は転出，転入ともに減少していることから，社会減は減少傾向となっています。

図7 社会動態（転入・転出）の推移



出典：広島県人口移動統計調査

※1985年までは年度集計，1990年以降は前年10月1日～当年9月31日までの集計

1990年までは住民基本台帳法及び外国人登録法に基づく1か月間の転入・転出調査票により取りまとめて集計，1995年以降は住民基本台帳法に基づいて，市区町村窓口届け出た転入者又は転出者が記入した調査票を，届出日より1か月毎にまとめて集計

表8 社会増減数（率）の比較

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	平均
江田島市	-283人	-226人	-242人	-410人	-245人	-281人
	-10.3%	-8.4%	-9.2%	-15.9%	-9.7%	-10.7%
広島県	-2,417人	-3,095人	-2,165人	-2,921人	-4,202人	-2,960人
	-0.8%	-1.1%	-0.8%	-1.0%	-1.5%	-1.0%

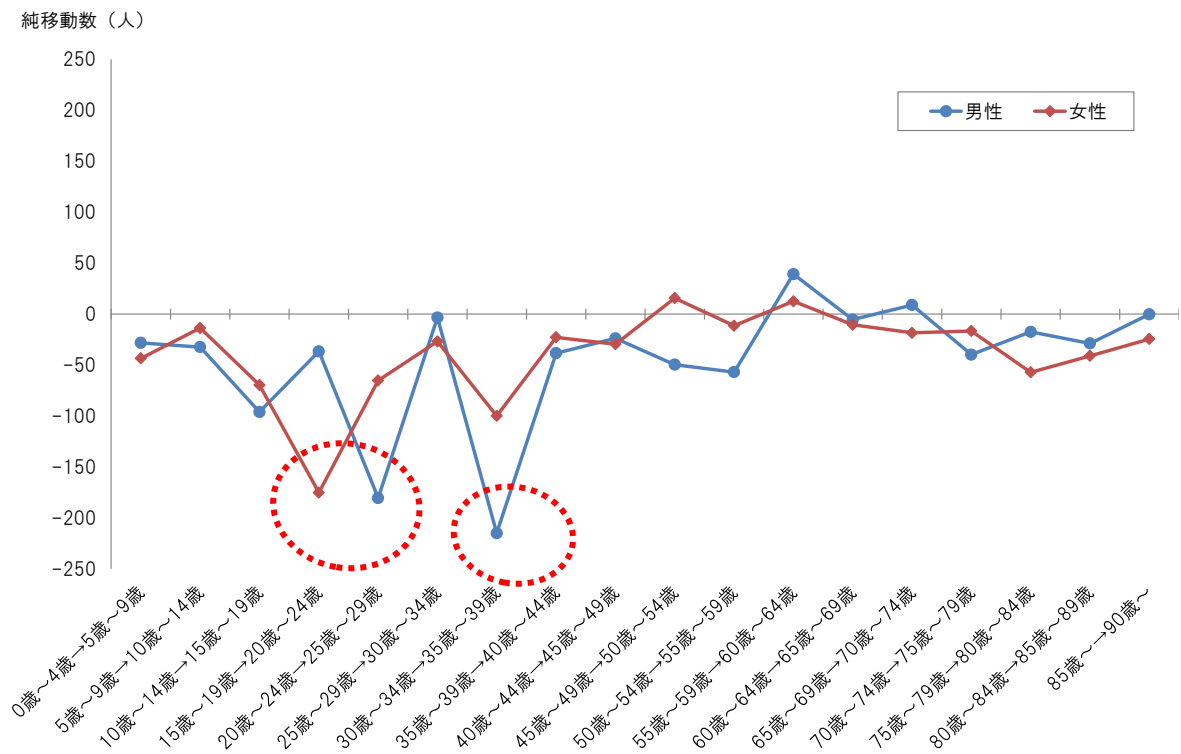
※広島県人口移動統計調査より作成

b. 性別・年齢階級別の人口移動の状況

江田島市の性別・年齢階級別の人口移動の状況をみると、女性は10代後半から20代前半の進学、就職の時期に大幅な転出超過となっており、男性は20～24歳から25～29歳及び30～34歳から35～39歳になる時期に大幅な転出超過となっています。

母親世代にあたる女性の15～49歳では、全年齢階級で転出超過となっており、出生数の増加のためには、この年齢の流出抑止が課題となっています。

図8 平成17(2005)年→平成22(2010)年の性別・年齢階級別人口移動



出典：国勢調査

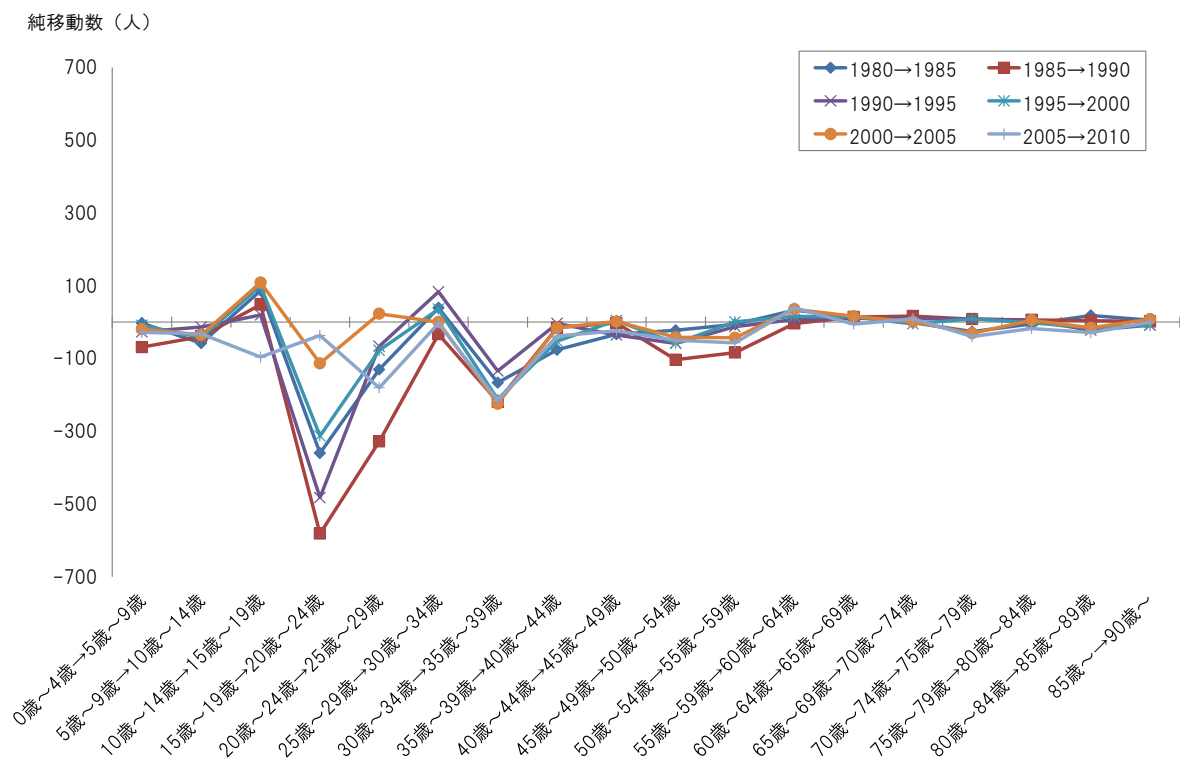
※2010年と2005年の5歳階級別人口の差から純移動数を推計し作成

c. 性別・年齢階級別の人口移動の状況の長期的動向

①男性

江田島市における男性の長期的動向では、15～19歳から20～24歳になるときに大幅な転出超過となつていますが、転出超過は縮小傾向となつています。10～14歳から15～19歳人口では、1980→1985年から2000→2005年までは転入超過でしたが、2005→2010年では転出超過となつています。

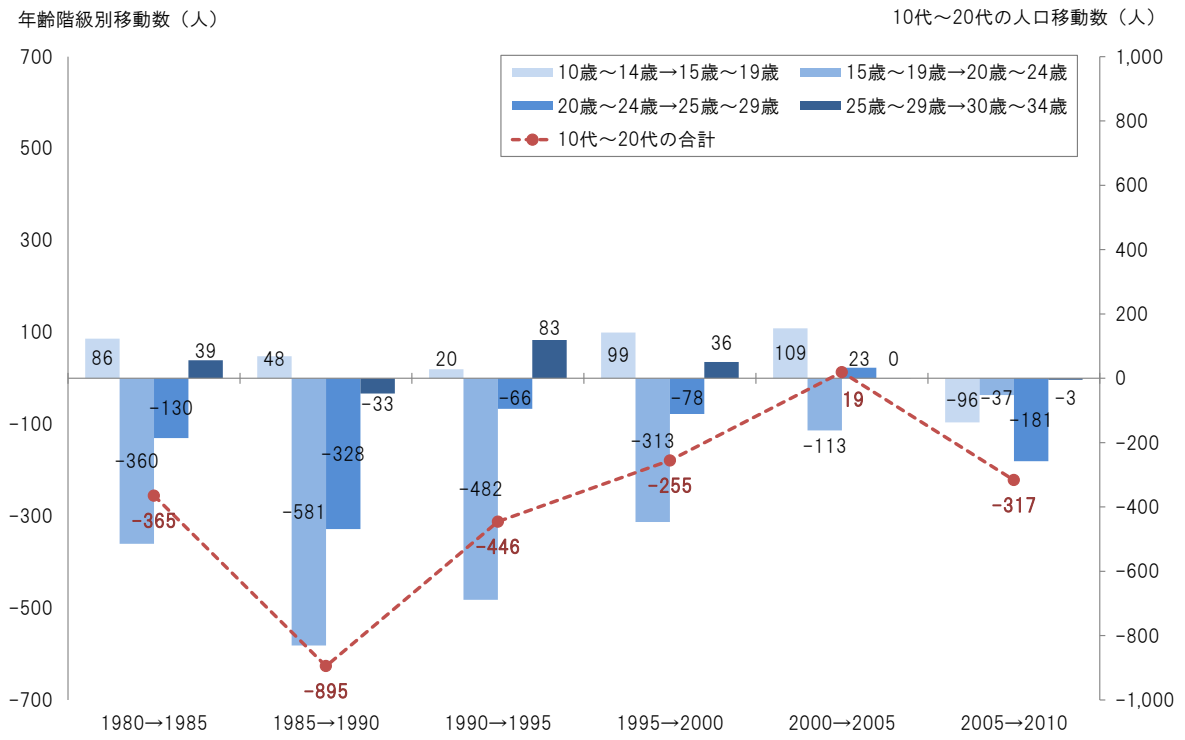
図9-1 年齢階級別人口移動の状況の長期的動向（男性）



出典：国勢調査

※X年とX-5年の5歳階級別人口の差から純移動数を推計し作成

図9-2 10代から20代の若者の人口移動の長期的動向（男性）



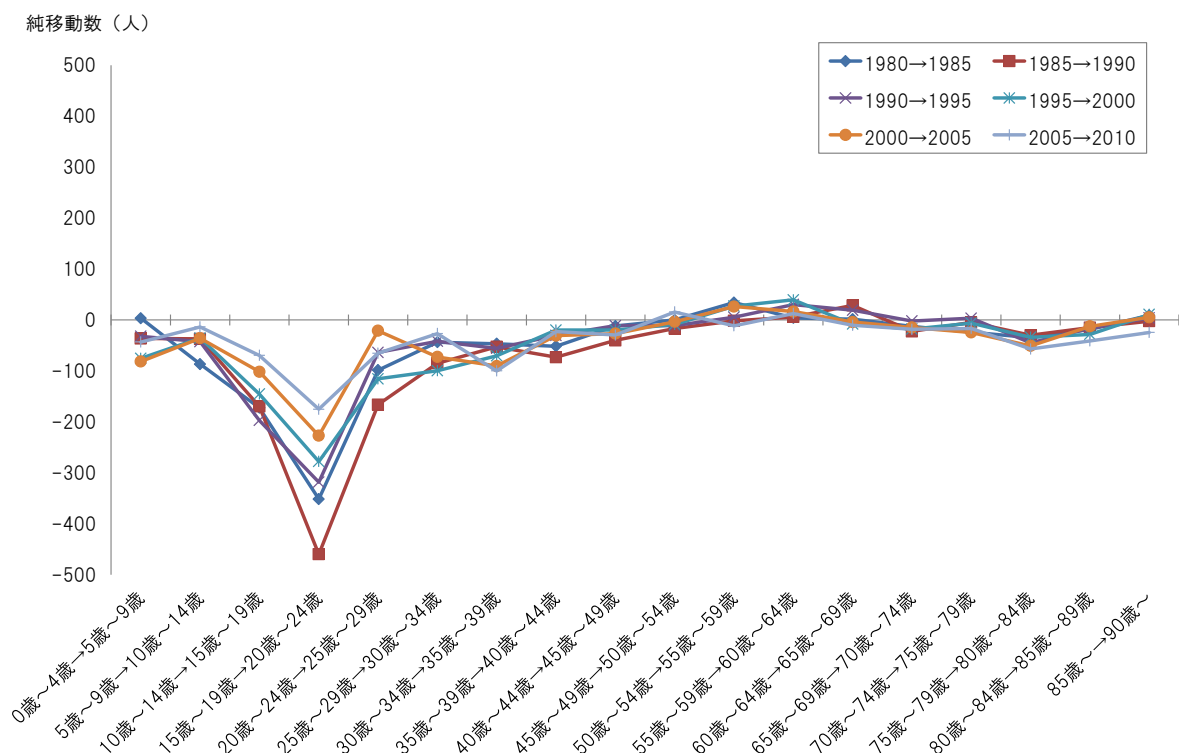
出典：国勢調査

②女性

江田島市における女性の長期的動向では、10～14歳から15～19歳になるとき、及び、15～19歳から20～24歳になるときに大幅な転出超過の傾向となっています。20～24歳から25～29歳になるときの転出超過は、男性同様に減少傾向となっています。

この大幅な転出超過の傾向が見られる10代から20代の人口移動を比較(転入超過数－転出超過数)すると、10代から20代の若者が長期的に流出していることが明らかとなっています。

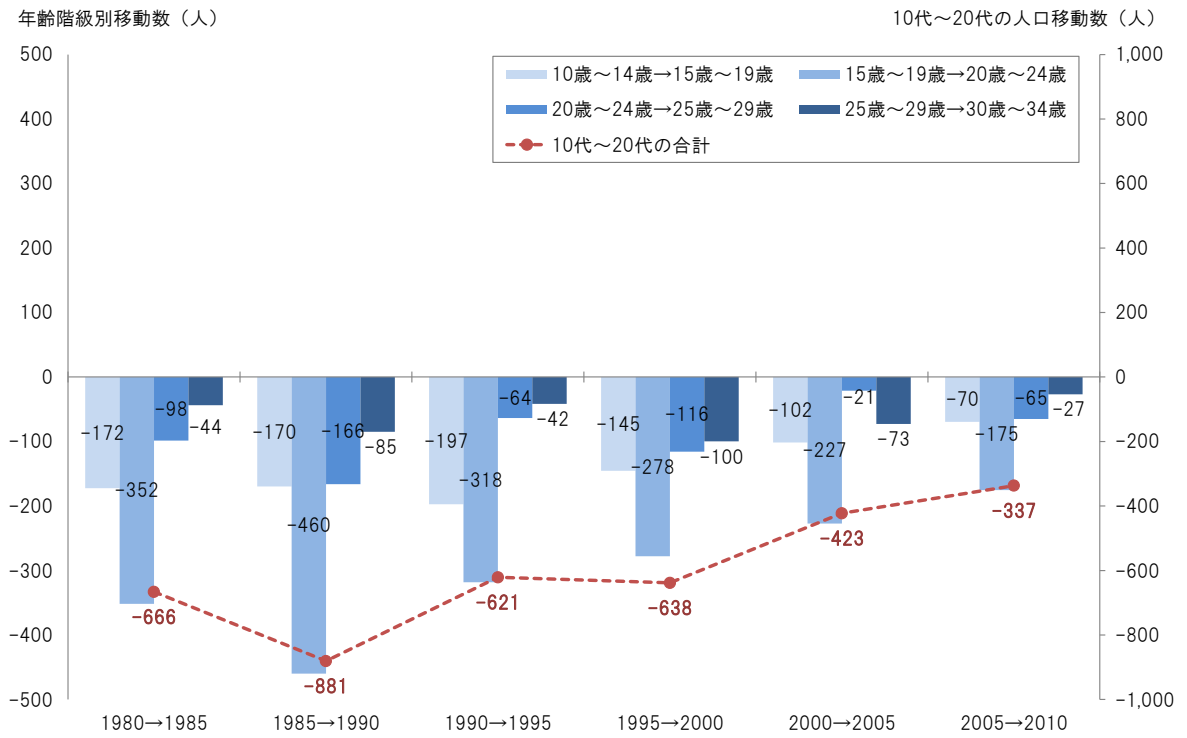
図10-1 年齢階級別人口移動の状況の長期的動向（女性）



出典：国勢調査

※X年とX－5年の5歳階級別人口の差から純移動数を推計し作成

図10-2 10代から20代の若者の人口移動の長期的動向（女性）



出典：国勢調査

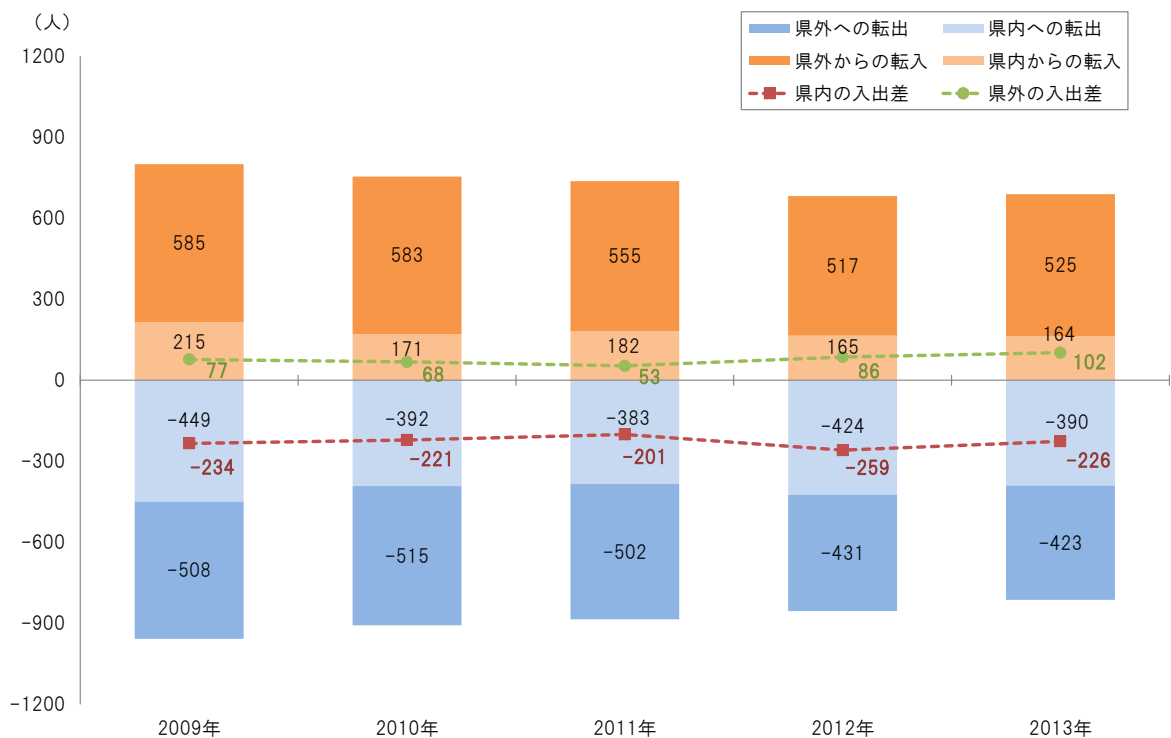
d. 人口移動の最近の状況

①男性

江田島市における男性の転入数及び転出数は、年による変動はあるものの、ほぼ横ばい状態となっています。

その内訳をみると、県内への転出より県外への転出の方が多くなっています。転入についても同様で、県内からの転入より県外からの転入の方が多くなっています。入出差を県内、県外でみると、県内移動は転出超過で推移していますが、県外移動は転入超過で推移しています。

図11 人口移動の最近の状況（男性）



出典：広島県人口移動統計調査

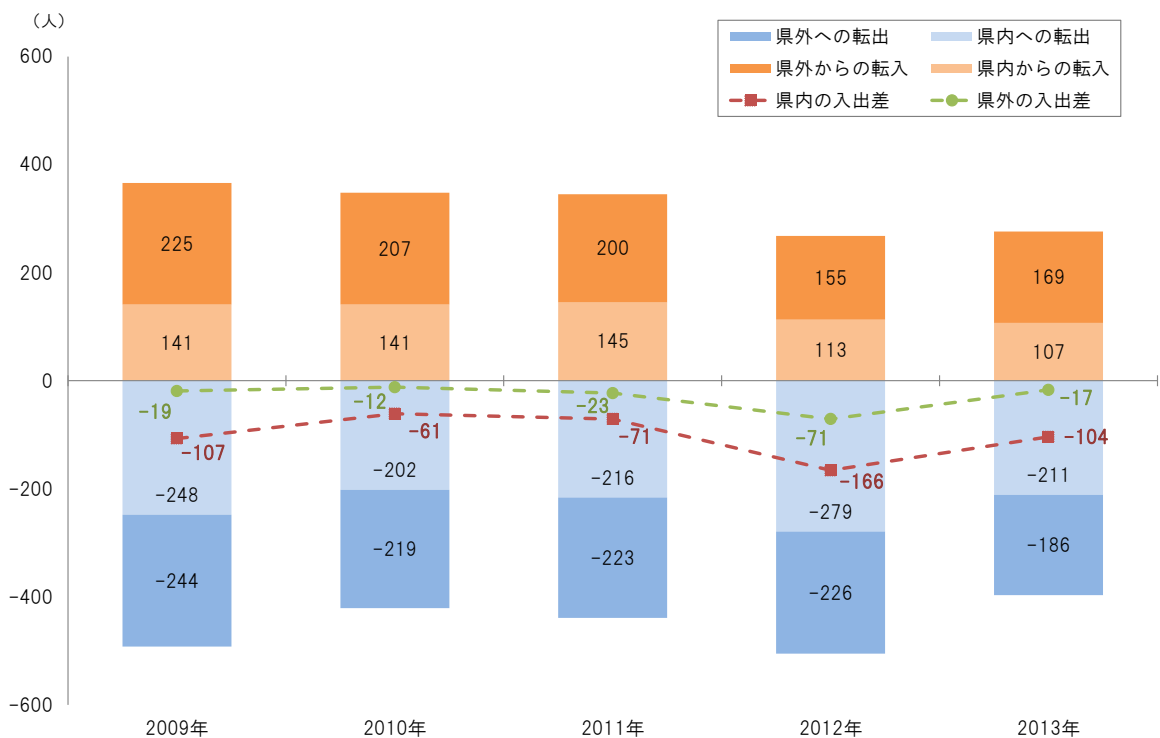
※住民基本台帳法に基づいて、市区町村窓口に届け出た転入者又は転出者が記入した調査票を、届出日より1か月毎にまとめて集計

②女性

江田島市における女性の転入数及び転出数は、男性同様、年による変動はあるものの、ほぼ横ばい状態となっています。

その内訳をみると、転出は、県外、県内がほぼ同じ数となっています。転入については、県外からの転入が県内からの転入より多くなっています。入出差を県内、県外でみると、いずれも転出超過で推移しています。

図12 人口移動の最近の状況（女性）



出典：広島県人口移動統計調査

※住民基本台帳法に基づいて、市区町村窓口に届け出た転入者又は転出者が記入した調査票を、届出日より1か月毎にまとめて集計

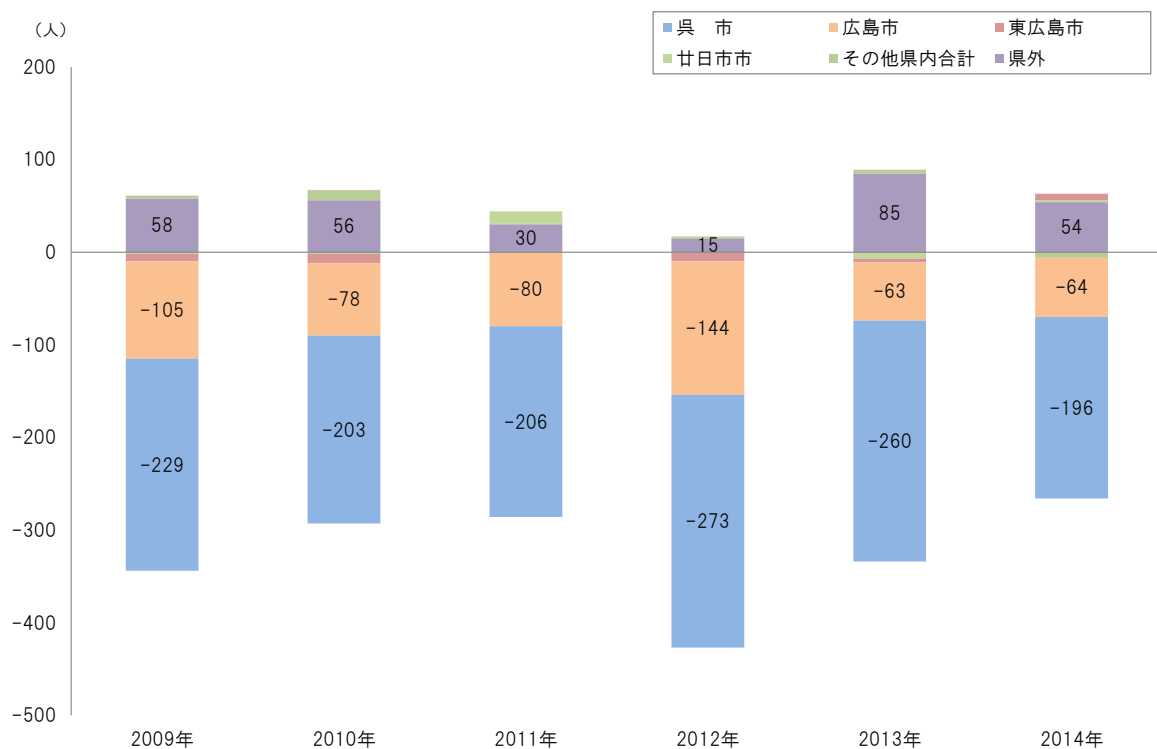
e. 県内市町・県外への人口移動の最近の状況

江田島市における県内市町・県外への人口移動（転入－転出）をみると、隣接する呉市への人口移動が特に多く、次いで広島市への人口移動が多くなっています。呉市への移動状況は、平成24年（2012年）に273人と特に転出が多くなっていますが、平均的には200人前後の転出で推移しています。

県外の移動状況は、転出超過で推移しています。

ここ数年の状況としては、平成24年（2012年）に特に転入が少なく、転出が多くなっています。

図13 県内市町・県外への人口移動の最近の状況



出典：広島県人口移動統計調査

※住民基本台帳法に基づいて、市区町村窓口に届け出た転入者又は転出者が記入した調査票を、届出日より1か月毎にまとめて集計

f. 周辺市町との人口移動の最近の状況（平成26年（2014年））

江田島市の平成26年（2014年）における周辺市町との人口移動の状況をみると、転出超過は、呉市が最も多く、次いで広島市となっています。

転入超過は、東広島市が最も多く、次いで三原市、廿日市市となっていますが、いずれも10人未満となっており、転出入がほぼ均衡しています。

図14 平成26年の県内市町への人口移動の状況

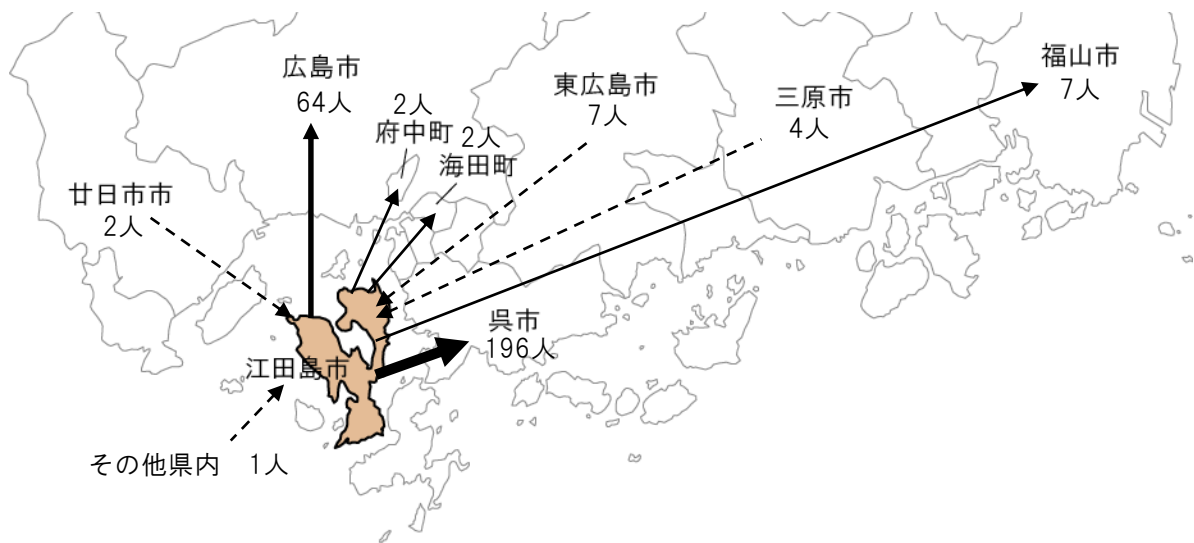


表10 移動状況詳細

	転入	転出	差
呉市	127人	323人	-196人
広島市	99人	163人	-64人
東広島市	18人	11人	7人
廿日市市	16人	14人	2人
福山市	5人	12人	-7人
安芸郡海田町	5人	7人	-2人
安芸郡府中町	2人	4人	-2人
三原市	7人	3人	4人
その他県内	21人	20人	1人
県外	630人	576人	54人
合計	930人	1,133人	-203人

出典：国勢調査

(4) 雇用や就労等に関する分析

a. 男女別産業人口の状況

江田島市における男女別に産業人口の状況を見ると、男性は、公務（他に分類されないもの）、製造業、建設業の順に就業者数が多く、女性は、医療・福祉、卸売業・小売業、製造業の順に多くなっています。

江田島市における特化係数（市のX産業の就業者比率／全国のX産業の就業者比率）をみると、漁業については、男女とも高く、次いで公務（他に分類されないもの）、複合サービス事業が高くなっています。

一方で、情報通信業、金融業・保険業、不動産業・物品質貸業などは、特化係数が低く、相対的に就業者比率が低いことが分かります。

※特化係数・・・市のX産業の就業者比率を全国のX産業の就業者比率で割ったもの。特化係数が「1」であれば全国レベル。1以上であれば市のX産業は特化していると言えます。

図15 男女別産業人口の状況 平成22(2010)年

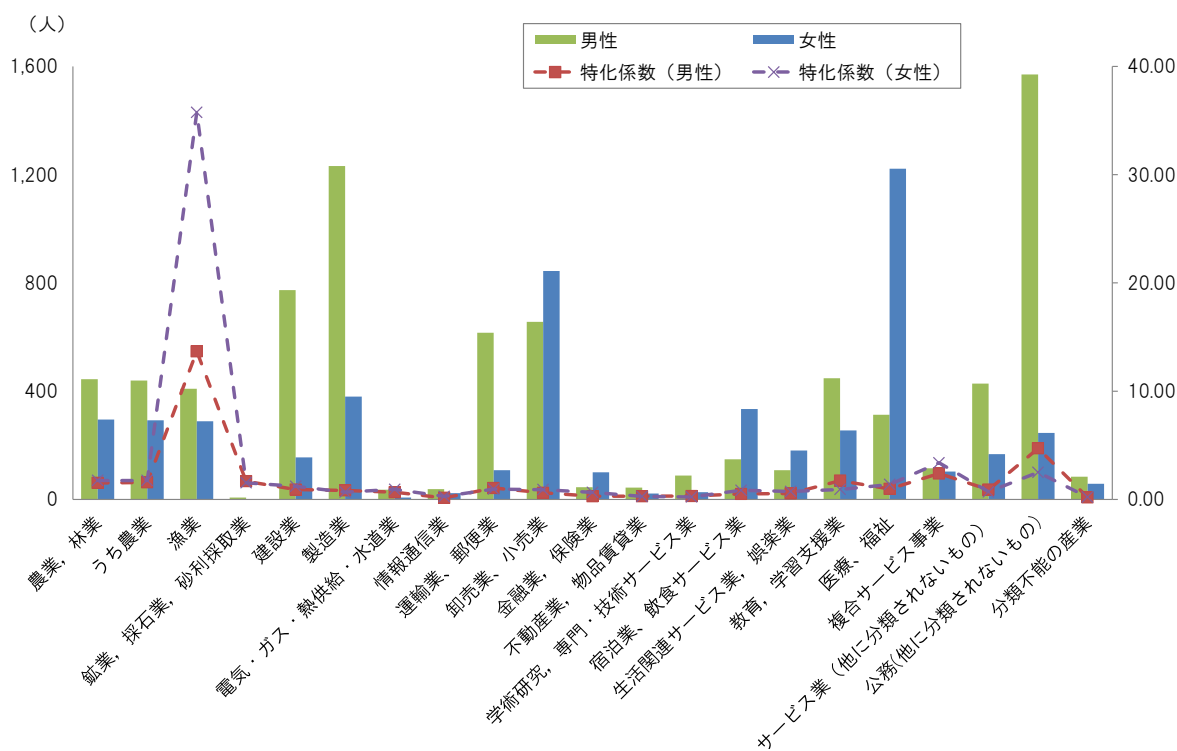


表11 産業人口の割合

	全体	第1次産業	第2次産業	第3次産業
江田島市	100%	11.6%	20.5%	66.8%
広島県	100%	3.3%	25.3%	66.6%
全国	100%	4.0%	23.7%	66.5%

出典：国勢調査

※「分類不能の産業」を除くため、合計は100にならない。

b. 年齢階級別産業人口の状況

江田島市において最も特化係数が高い漁業の女性については、約5割が60歳以上であり、30歳代以下は1割程度となっています。その他、高齢化率が高い業種としては、農業、漁業などとなっています。

一方、20歳代、30歳代の若年人口の割合が高い業種としては、医療、福祉となっており、次いで製造業、卸売・小売業となっています。

図16 年齢階級別産業人口の状況 平成22(2010)年

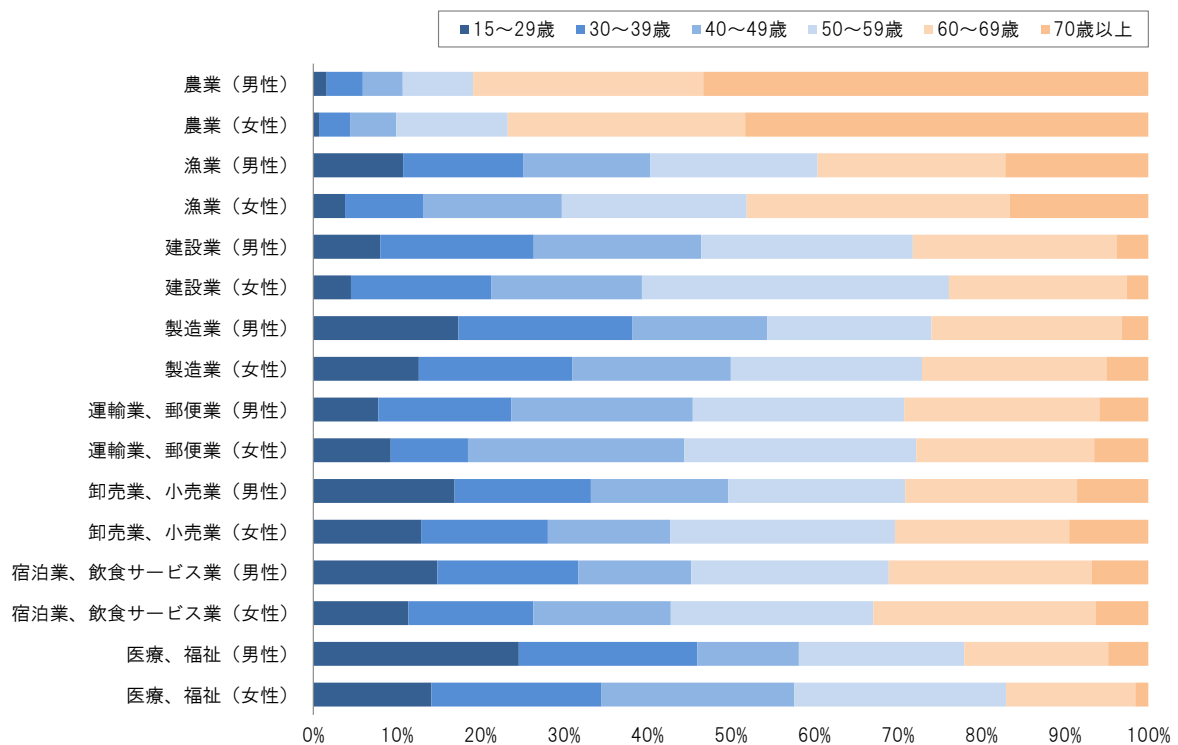


表12 60歳以上の産業人口の割合

		第1次産業	第2次産業	第3次産業
江田島市	60歳未満	38.6%	73.4%	80.2%
	60歳以上	61.4%	26.6%	19.8%
広島県	60歳未満	25.9%	82.8%	81.8%
	60歳以上	74.1%	17.2%	18.2%
全国	60歳未満	39.3%	82.7%	82.3%
	60歳以上	60.7%	17.3%	17.7%

出典：国勢調査

c. 市内の工業，商業の状況

①工業

江田島市の工業については，従業者数，製造品出荷額等とともに減少傾向となっており，平成25年（2013年）時点で平成6年（1994年）と比較すると，従業者数は30.2%，製造品出荷額等は7.6%減少しています。ただし，従業者数は平成14年（2002年）以降は900人台で推移し，製造品出荷額等は平成19年（2007年）に一時大幅な増加となった後，減少に転じています。製造品出荷額等の増減は，国，広島県と同様の傾向となっています。

また，事業所数については，50前後で推移しています。

図17-1 工業の推移

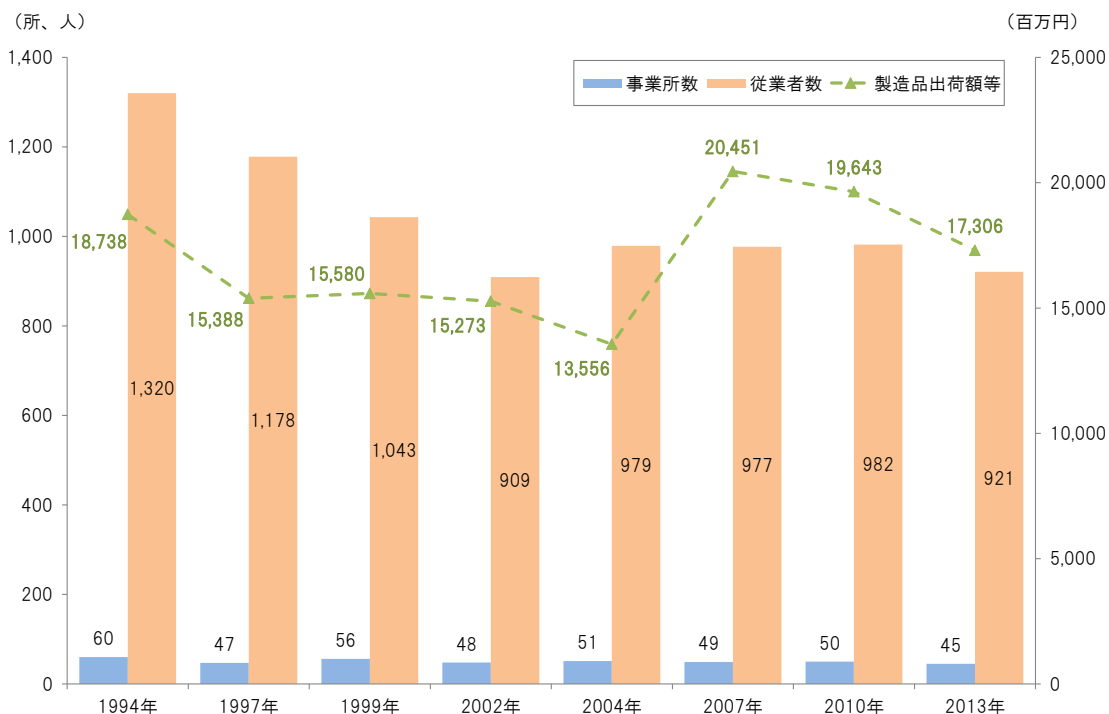


図17-2 工業の推移（広島県）

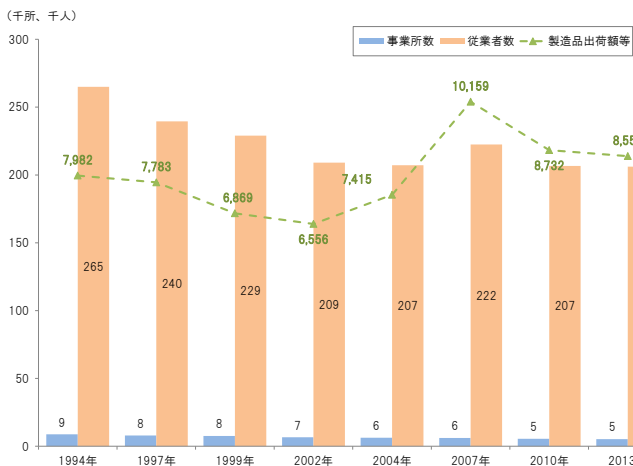
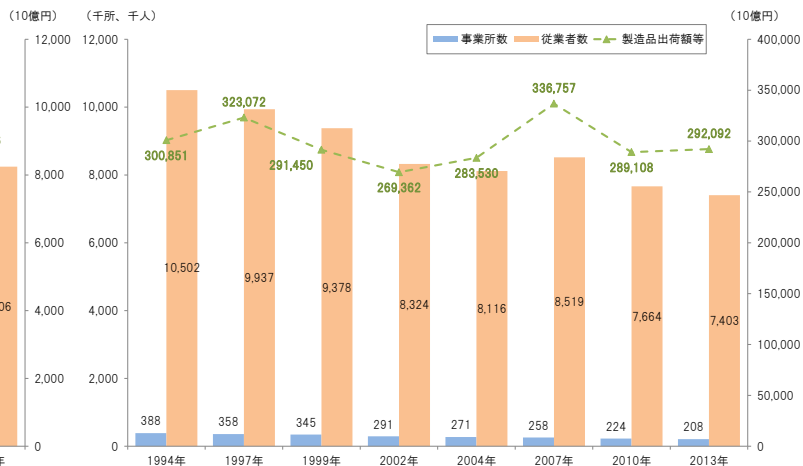


図17-3 工業の推移（全国）



出典：工業統計調査

②商業

江田島市の商業については、商店数、従業者数、年間商品販売額ともに減少傾向となっており、平成19年（2007年）時点で平成6年（1994年）と比較すると、商店数は31.5%、従業者数は19.2%、年間商品販売額は22.4%減少しています。

年間総品販売額は、全国、広島県と同様に2000年前後で落ち込みを見せていますが、全国や広島県がその後、横ばいで推移しているのに対して、江田島市は減少傾向となっています。

図18-1 商業の推移

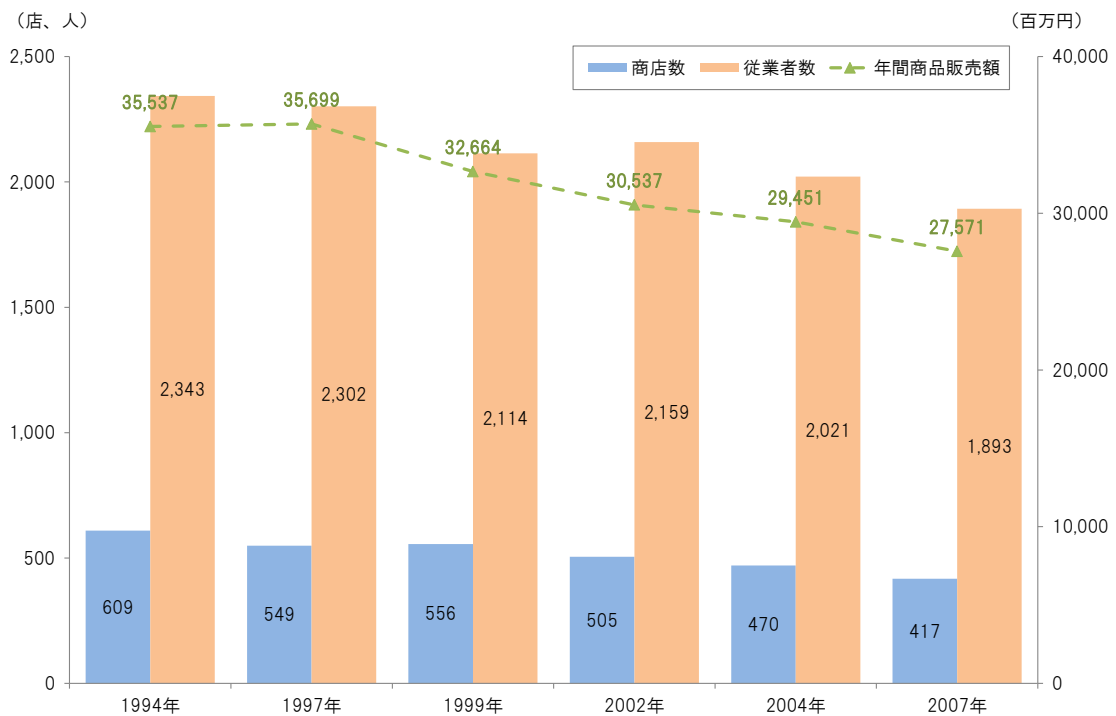


図18-2 商業の推移（広島県）

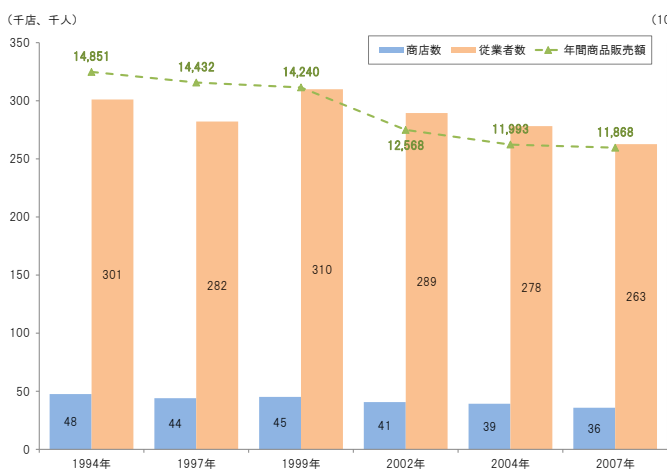
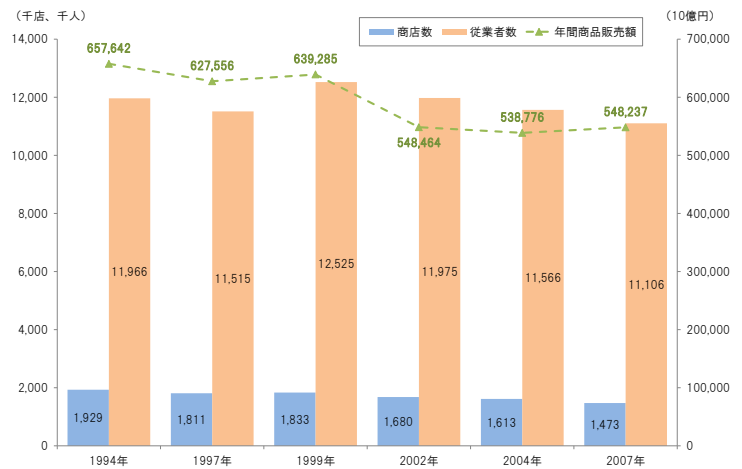


図18-1 商業の推移（全国）



出典：商業統計調査

(5) まとめ

①人口動向

江田島市の人口は、平成 22 年（2010 年）時点で 27,023 人となっています。総人口を昭和 50 年（1975 年）以降で見ると、全国、広島県は増加していますが、江田島市は減少傾向で推移しており、年少人口だけではなく、生産年齢人口についても大きく減少しています。

②自然増減

江田島市の合計特殊出生率は、平成 20 年（2008 年）-平成 24 年（2012 年）で 1.38 から 1.47 へ改善していますが、母親世代人口の減少から出生数は横ばいで推移しています。また、男女の未婚率は年齢が上がるに従い県平均より高くなっており、結婚しない男女の増加も要因となっています。

③社会増減

江田島市の総人口の減少とともに、ここ数年の社会増減数は減少傾向で推移しています。男女ともに 20 歳前後での転出超過が突出していますが、男性の場合は、30 歳代にも転出超過の傾向がみられます。

人口移動の最近の状況では、隣接する呉市・広島市への転出超過となっていますが、県外からは逆に転入超過となっており、Uターン者がある程度含まれるものと推測されます。

④雇用や就労等

江田島市の産業では、産業人口では製造業、建設業が多く、特化係数の高い産業としては漁業となっています。20 歳代、30 歳代の若年人口の割合が高い業種としては、医療、福祉、製造業、卸売・小売業が多くなっています。

工業については、ここ数年、事業所数、従業者数が横ばいで推移していますが、製造品出荷額等は減少傾向で推移しています。商業についても商店数が横ばいですが、従業者数、年間商品販売額は減少傾向となっています。全国的には回復基調となっていますが、市内産業は依然厳しい状況となっています。

2. 将来人口の推計と分析

(1) 将来人口推計

人口推計については、以下のパターンにより行っています。

- パターン1：国立社会保障・人口問題研究所（社人研）推計準拠
- パターン2：民間機関（日本創生会議）推計準拠
- シミュレーション2：パターン1を基に移動率を変更（移動ゼロ）
- シミュレーション2-1：パターン1を基に移動率を変更（移動30%改善）
- シミュレーション2-2：パターン1を基に移動率を変更（移動50%改善）
- シミュレーション2-3：総合計画目標人口による推計

図1 将来人口の推計

